

2011年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	須田 朗		
NAME	SUDA, Akira		

1. 研究課題

(和文) ハイデガーと近代哲学

(英文)

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

本研究は20世紀最大の哲学者M・ハイデガーの哲学の研究を目標とする。

ハイデガーはその主著『存在と時間』で、プラトン以来の哲学の歴史が「存在忘却」の歴史だと解釈したうえで、その哲学史を解体して改めて存在への根源的な問いを自覚的に反復することを目標とした。そのために『存在と時間』前半部では人間の実存が分析された。それを踏まえて哲学史の脱構築が『存在と時間』第二部で行なわれるはずであったが、その後半は書かれずじまいに終わった。この書かれなかったかなりの後半部分の内容は、ハイデガーの大学での講義から再構築が可能である。ところで『存在と時間』後半部分の最初をなすのが、近代哲学との対決である。ハイデガーは近代哲学、とりわけ近代の最大の哲学者カントとどう対決したのか。ここ数年ハイデガーのカント解釈を研究目標として設定してきた本研究者は、これまでカントの美学理論、カントの「超越」論に対するハイデガーの解釈を研究してきた。その成果を踏まえて、2007年には論文「わたしのいる空間」で、ハイデガーの『存在と時間』での空間論を分析してきた。ハイデガーの独特な空間論がカントの空間論およびその淵源としてのデカルトの物体観との比較によって、そこで明らかにされた。それを踏まえて、2009年度はハイデガーのデカルト論に研究が集中した。その成果を論文「ハイデガーのデカルト論」（2010年2月）で発表した。この成果を踏まえてハイデガーのカント解釈、さらには近代哲学解釈に、本特定課題研究では研究を進めたい。

(英文)

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p> <p>須田朗「ハイデガーの良心論」中央大学文学部紀要（哲学）、中央大学文学部、哲学[第54号]pp.15-39、2012年2月</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p> <p>須田朗「カントとハイデガー——良心をめぐって——」東北哲学会第61回大会公開講演、於：弘前大学、2011年10月</p> <p>須田朗「良心とは何か——カント、ニーチェ、ハイデガーを手がかりにして」中央大学人文科学研究所「西洋合理主義にかんする比較思想的研究」研究会チーム、2011年11月</p>
<p>【図書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p>